日立市立豊浦中学校

Ⅰ　実践

1　実践テーマ

想像力や共感的に理解する力の育成を目指した教育活動の在り方
～　地域との絆を深める活動を通して　～

2　実践内容

（1）３ｉ運動の推進と継続

『３ｉ』とは，４年前から好ましい人間関係を目指して，教師と生徒が合い言葉として定義しているものである。縦割り３クラスの３であり，『まなびあい』『みがきあい』『たかめあい』のｉを意味する。特に今年度は，震災を経験したことにより，この体験を共有の事実としてとらえ『みがきあい』を中心に実践を試みた。この『みがきあい』は，道徳や総合，学級活動，清掃など一般社会につながる学習の場などで意識され「心を磨きあうような機会」の設定と考える。

ア　メッセージカードの作成と掲示

４年目を迎える今年度も，部活動や体育祭などの学校行事のたびに実施した。各種大会に参加する上級生に向けて下級生が励ましの言葉を書いたり，学校行事の実行委員や生徒会役員等に対するねぎらいの言葉を書いたりして，メッセージカードを掲示した。このことにより，市内新人陸上競技大会をはじめとして県駅伝大会出場などの運動面や吹奏楽部の東日本大会出場など，文化面での活躍も顕著になった。

イ　総合的な学習の時間における地域清掃への取り組み

震災では，学区内でも川尻港一帯や十王川沿いを中心に津波被害を受け，被災した生徒もいる。この事実を地域の人たちとともに受けとめるとともに，共に地域を復興させる一環として，津波による流出物が散乱していた十王川の清掃活動を実施した。

大きなものでは，長さ１０ｍもあろうかと思われる流木をはじめとして，家庭用風呂桶，そして魚網など，津波でなければ運ばれてこないものもあった。２時間あまりの限られた時間の中で，消防署員や地元の企業の従業員等の手を借りながら，一生懸命に作業を行った。まさに，他の人の立場に立って，その人に必要なことやその人の考えや気持ちなどが

わかるような想像力や共感的に理解する力が養われたように思われる。

ウ　体育祭での取り組み

体育祭では，伝統種目である赤，青，黄色の縦割りで行われる集団ダンスにおいて，黄色集団が地域の「復興」をテーマにした演技を発表し，見事に優勝を飾った。夏休みいっぱいかけて作り上げた成就感もさることながら，ともに震災を体験した地域の人たちと感動を共有し，復興への元気を手にすることができた。

（２）職場体験学習での地域へのかかわり

今年度の職場体験学習のテーマは，『豊浦の職業人から学ぼう』（Expand the ability through working）である。地域（学区内）を中心とした職場体験により，地域で働くの人々とふれあいを通して，プロとしての技や地域の事業所のすばらしさを発見し，地域のすばらしさを発信していく。東日本大震災で被災した地元を元気にしようというねらいもあり，地元の事業所を中心にした職場体験学習を実施した。

（３）サンフラワープロジェクトへの取り組み

企画提案型事業の一環として，東日本大震災で被災した地元をヒマワリの花で元気にしようというねらいのもとに取り組んだものである。各学年ごとに種からヒマワリを育て，プランターに復興への願いを込めてメッセージを書き込み，学区内の公共施設や花壇等に飾った。生徒たちのメッセージは，地域の人たちに元気を与えたばかりでなく，思いを込めて書く行為を通して，他者の立場や思いを自他共に確かめることができたものと考える。

３　成果

３ｉ運動を継続してきたことで，教育活動全般における生徒の活動意欲の高まりが感じられるようになった。それとともに部活動や各種行事での成就感は生徒たちの自信につながり，自分の大切さとともに，他の人の大切さを認めることができる心のゆとりが育ってきていることを信じたい。震災当日，体育館での地元の避難者への対応やその後の地域の倒れた塀などの後片付けに自主的に取り組んだ生徒たちがいたことも付け加えたい。

Ⅱ　今後の課題

学校生活における日常の友人関係に絞ってみると，まだまだ人間関係調整力やコミュニケーションの能力や技能の面で，個人差が大きいのも事実である。それにともなって，自尊感情の育成も課題と考えられる。